

本資料の内容を無断で転載することを禁じます

## 製薬企業より

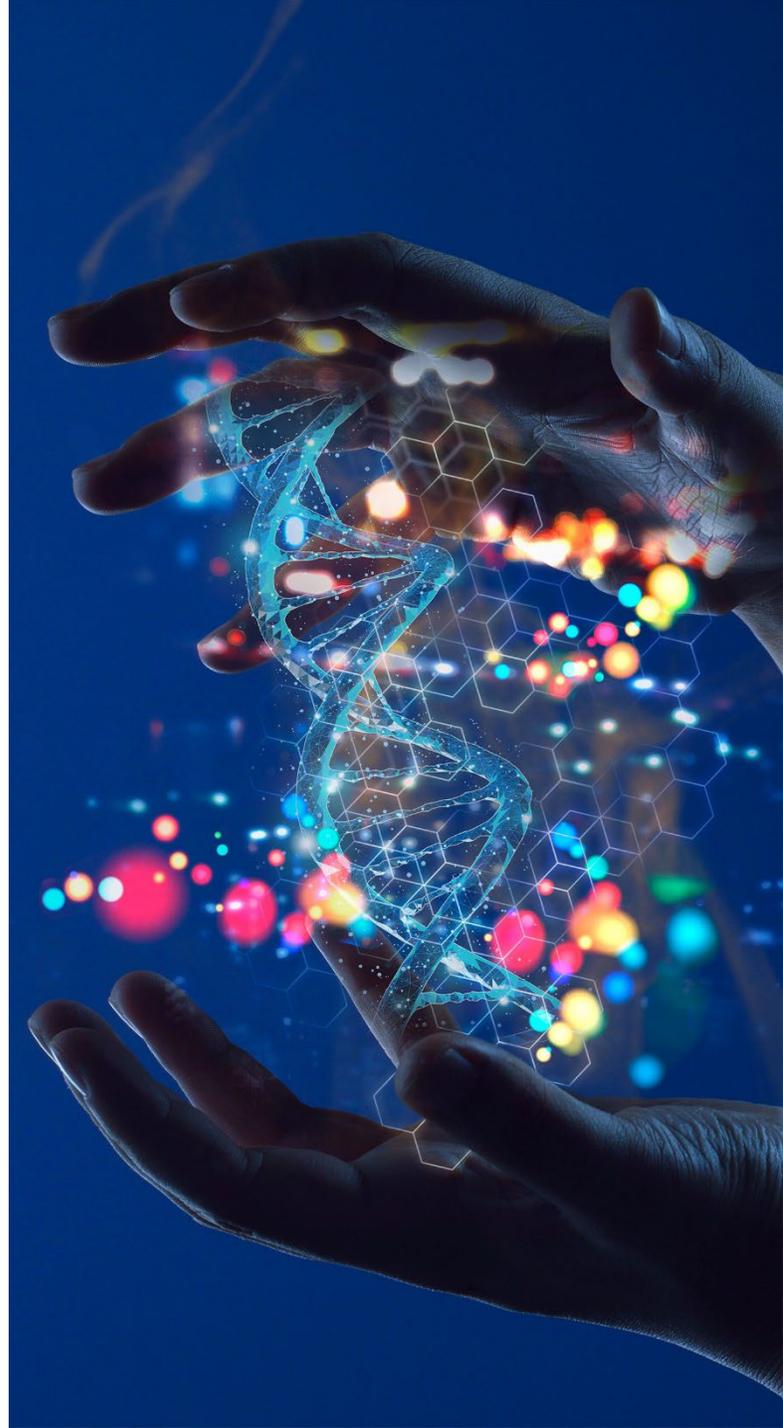
～「いかに活用してほしい？」各種資材に込めた思い～

篠田好果

日本製薬工業協会（製薬協）PV部会 TF1  
（ノバルティス ファーマ株式会社 ペイシエントセーフティ）

第19回 日本薬局学会 学術総会

2025年11月1日



# 日本薬局学会 COI 開示

発表者名： 篠田 好果

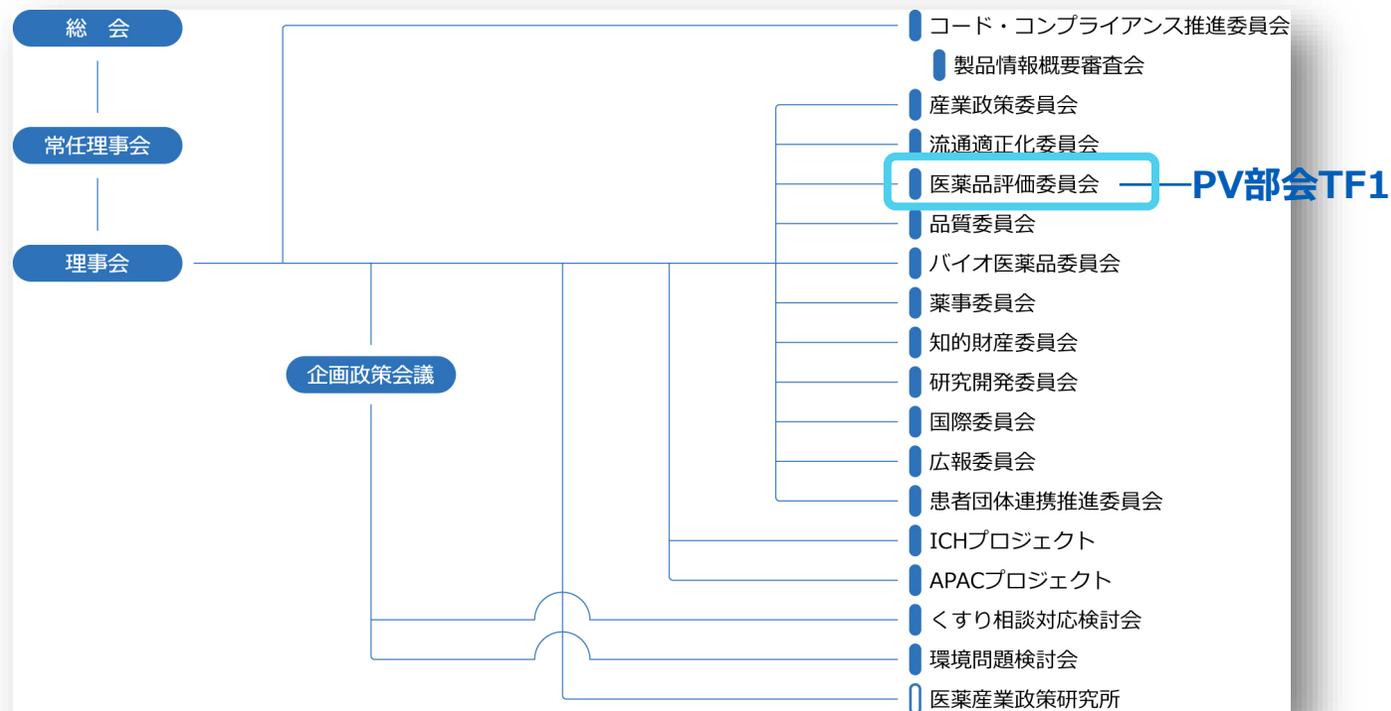
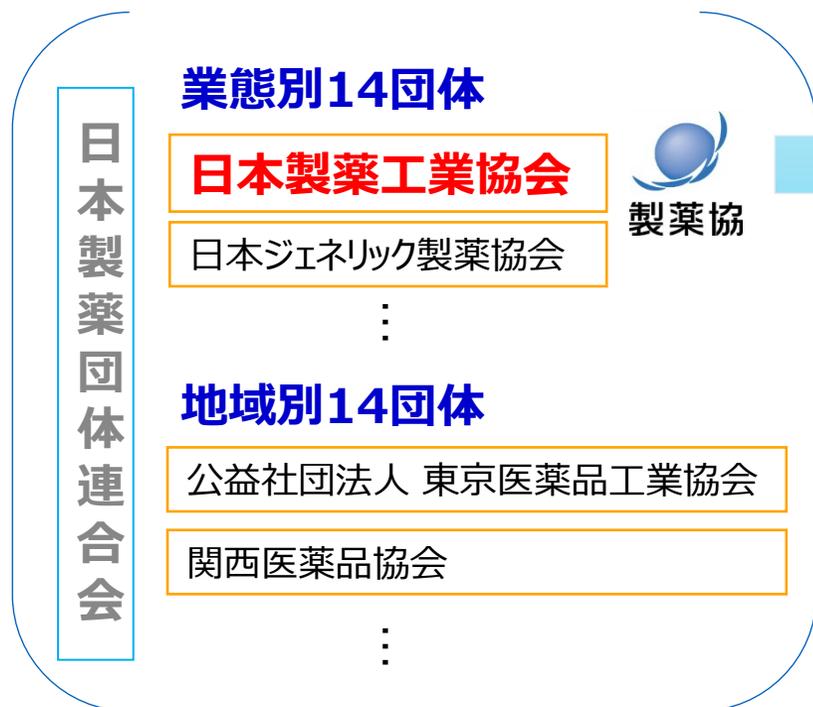
演題発表に関連し、開示すべきCOI 関係にある 企業  
はありません。

# 日本製薬工業協会（製薬協）とは

研究開発志向型の製薬企業69社（2025年9月1日現在）が加盟する任意団体です

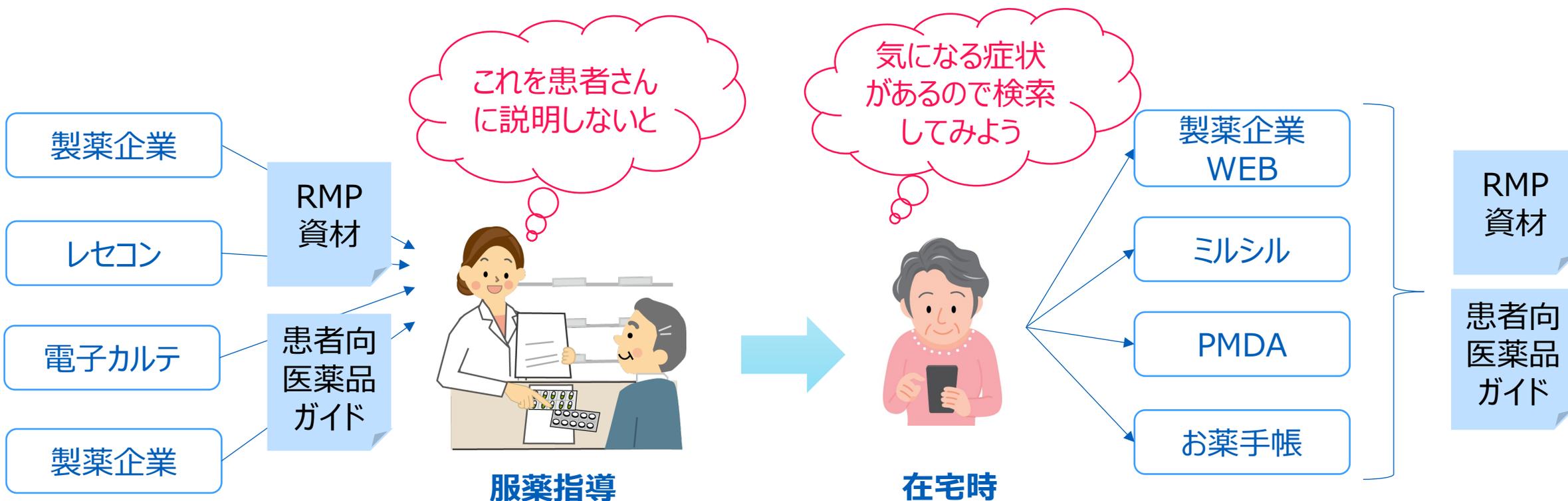
1968年の創立以来、「患者参加型医療の実現」を理念に掲げ、革新的な医療用医薬品の研究開発を通じて、世界の医療の発展に貢献し続けています。

医薬品評価委員会PV部会に所属するTF1では、DX×リスクコミュニケーションをテーマに活動しています。



# 目指したい世界

医療従事者、患者さんのいずれもが、必要な時に必要な最新情報へアクセス出来る仕組みを実現すること。



①医療従事者が  
必要な最新資材へ容易にアクセスできる

②患者さんが  
必要な最新資材へ容易にアクセスできる

# イントロダクション

**製薬企業が作成した資材は、皆さまの現場で活用されていますか？**

製薬会社の資材作成、薬剤師による資材活用状況や課題をアンケート結果を交えてご紹介します。



製薬会社が作成した資材は  
薬局ではどのくらい活用・配布  
されている？

資材に込めた情報や意図は、  
きちんと伝わっている？



提供している資材の形式や媒体は、  
使いやすいものになっている？



# CONTENTS

1. **製薬企業による各種資材の作成**～資材に込めた思い～
2. **薬剤師による情報活用**～アンケート結果から見えた現状～
3. **まとめ**

# CONTENTS

1. **製薬企業による各種資材の作成～資材に込めた思い～**
2. 薬剤師による情報活用～アンケート結果からみえた現状～
3. まとめ

# 製薬企業が作成する資材はさまざまです

医薬品共通の情報として、電子添文やインタビューフォームなどの資材を作成します。  
加えて、疾患・製品特性に応じた医薬品情報として、RMP資材やその他の資材を作成し提供しています。

## 添付文書等の資材

- 電子添文
- インタビューフォーム
- くすりのしおり
- 患者向医薬品ガイド
- 緊急安全性情報／安全性速報

## RMP資材

医薬品リスク管理計画書において「追加のリスク最小化策」として作成される資材

- 医療従事者向け資材：適正使用ガイドなど
- 患者向け資材：〇〇カード、〇〇を使用する患者様とご家族へ など

## その他の資材

### 医療従事者向け

- 総合製品情報概要
- 注意喚起、適正使用お願い文書
- お知らせ文書
- 疾患解説資材
- 再審査の結果や製造販売後の各種調査の結果
- プレゼンテーションコンテンツ（説明会資料など）
- 講演会・研究会記録集 他

### 患者さん向け

- 疾患解説資材：疾患に関する各種情報・ダイアリー・レシピ など
- 患者向け服薬指導資材：〇〇を使用されている方へ（医薬品の適正な使用方法などを確認するための資材）など
- 医療従事者が使用するための患者説明用資材

患者さん向けサイトで入手・  
閲覧・使用可能なもの





# 患者向けRMP資材の事例

注意すべき「症状」に  
特化した情報提供  
(1ページ)

総合的な情報提供  
(安全性以外も含む)  
(全28ページ)

常に携帯することを想定した  
患者カード  
(カード)

医薬品リスク管理計画 (RMP)

投与される患者さんとご家族の方へ  
**うつ病の症状について**

投与期間中にうつ病の症状がみられることがあります。

特にいずれかの症状がみられた場合には、**すぐに担当医にご相談ください。**

- 物事に興味がなくなった
- 気分が落ち込んだ
- 眠れなくなった
- 食欲がなくなった
- 不安やイライラが出た
- いろいろなことが面倒になった

うつ病、うつ状態の方、または過去にうつ病、うつ状態があった方は、使用する前に担当医にご相談ください。

その他にも気になる症状やわからないことがある場合は、**担当医にご相談ください。**

医療機関名

医薬品リスク管理計画 (RMP)

注意が必要な副作用

## 血球減少

治療によって白血球(好中球、リンパ球)や赤血球、血小板などの数が少なくなる副作用です。これらの血球はすべて免疫機能やからだの正常な機能に重要な役割を果たしているため、その数が減少するとからだの免疫力(防御力)が低下し、感染症にかかりやすくなる可能性がある他、貧血や、血が止まらなくなるなどの症状があらわれることがあります。

いつ頃起こりやすいか(発現時期)

一般的には治療開始1~2週間で最も低下し、その後数週間で回復することが多いですが、発現する時期は患者さんにより異なります。

具体的な症状

- 発熱(好中球、リンパ球減少)
- めまい、立ちくらみ(赤血球減少)
- 鼻血、歯ぐきの出血(血小板減少)
- あざがでやすい(血小板減少)

副作用が起こったときの対応方法

具体的な症状や、その他にも気になる症状があれば、医師や看護師、薬剤師に連絡してください。

日常生活で気をつけるポイント

- 手洗い、うがいを常に心がけましょう。
- からだをぶついたり、転んでケガをしないように気をつけましょう。
- 包丁やハサミを使うときは切り傷に注意しましょう。
- 歯を磨くときは歯ぐきを傷つけないよう、やさしく磨きましょう。

診察の際に担当医や看護師、薬剤師に質問したいことなどのメモにご活用ください。

患者安全性カード RMP

服用されている患者さんは、このカードを常に携帯してください。

医師・看護師・薬剤師などにこのカードを提示してください。

このカードを救命救急室のスタッフに提示してください。

治療により、自然に廣わっている感染症に対する抵抗力が低下することがあります。また、髄膜炎や肺炎球菌、インフルエンザ菌b型に対するワクチンを接種していたとしても感染症を予防できない場合があります。重症な感染症は、早期発見、早期治療が行われない場合、急激に重症化し死に至ることがあるため、緊急の治療が必要です。

治療を中断/中止した場合でも、髄膜炎等による感染症が発現することがありますので、本剤の治療終了後も最低2週間はこのカードを携帯してください。

髄膜炎等による感染症が疑われる際に注意が必要な症状

- 発熱
- 震えや悪寒
- 頭痛
- 発疹
- 胸膈や咳
- 息苦しさ(息切れや呼吸数の増加)
- 高い心拍数
- 吐き気や嘔吐
- 首筋や背中のかたまり
- 錯乱(混乱して考えがまとまらない、物事を理解できない)
- 髄膜炎(頭痛して考えがまとまらない、物事を理解できない)
- インフルエンザのような症状を伴う体の痛み
- 皮膚の冷感
- 光に対する過敏な感覚(目が異様にさらさらしていて見える、異常にまぶしく感じる等)

感染症の初期症状は、インフルエンザや風邪の症状と区別がつきにくい場合があります。

この患者さんは、**1**が処方されており、**髄膜炎、肺炎球菌、インフルエンザ菌等の異形成細菌による重症な感染症の発症リスクが増加しています。**

●髄膜炎等による重症な感染症は、早期に治療が行われない場合、急激に重症化し、死に至る可能性があります。  
●髄膜炎等による重症な感染症が発現した場合はいは否定できない場合には、抗菌薬の投与等の適切な治療を速く開始してください。詳しい治療法に関する情報は、最新ガイドラインをご確認ください(日本神経学会 脳脊髄液検査・治療ガイドライン)。  
●髄膜炎等による重症な感染症が疑われた場合には、直ちに主治医と連絡をお願いします。  
https://www.neurology-jp.org/guideline/

感染症の予防のため、ワクチンの接種が必要です。以下のワクチン接種日を記録してください(医師記入)。

	接種した日	次回接種予定
髄膜炎ワクチン	年 月 日	年 月
肺炎球菌ワクチン	年 月 日	年 月
インフルエンザ菌b型(Hib)ワクチン	年 月 日	年 月

最新の電子添文は、こちらからご覧いただけます。

患者氏名

患者番号

治療の医療機関名

主治医名

電話番号

緊急時連絡可能な医療機関名

連絡先氏名

電話番号

相談してください。

このカードは常に携帯し、**1**が処方されているときは常に携帯してください。

2025年5月作成

患者さんに対し、リスクに関する情報を提供し、  
適正使用に関する理解を促し、安全性の確保を図る。

患者さん及びその家族が、本剤投与期間中に認められるうつ症状及びその際の対応を理解する。

患者さんやその家族に対して、本剤による治療、治療前の治療中の注意事項、副作用の初期症状と対処に関する情報などを提供することにより、**本剤の副作用を未然に防ぐ若しくは重篤化を防ぐ。**



# その他の患者向けデジタル資材の事例

## ダイアリーアプリ



## 医療機器 使い方動画



# 資材作成には、社内外の様々な視点を取り入れています

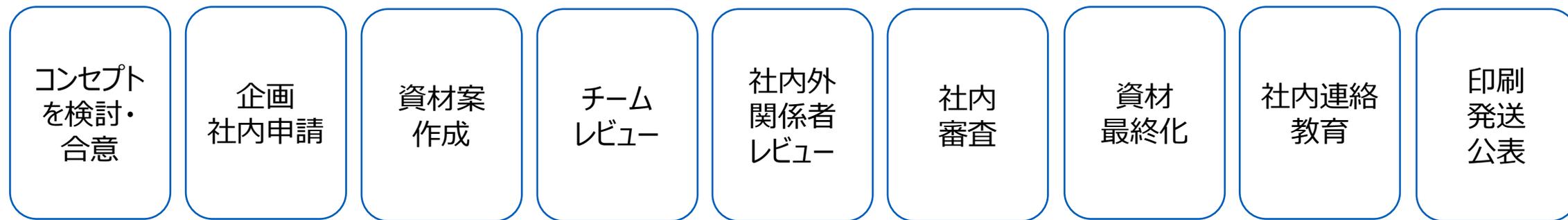
資材は、主となる担当者だけでなく対象となる医薬品にかかわる多くのメンバーが協働して検討し、**業界ガイドラインや各社の社内規制に従って作成**され、社内審査を経て、公表されます。

## 資材作成プロセスの概要

企画：～1か月

作成・社内審査・最終化：3～12か月※（会社と緊急度によって異なります）

※一般的な資材の場合。



**関係部署**（安全性部門、メディカル部門、マーケティング部門、臨床開発部門、薬事部門など）

医師監修・専門家助言をいただくケースや  
**RMP資材ではPMDAレビューが発生**



PMDA

# 資材作成に患者さんの意見を取り入れた事例（1/2）

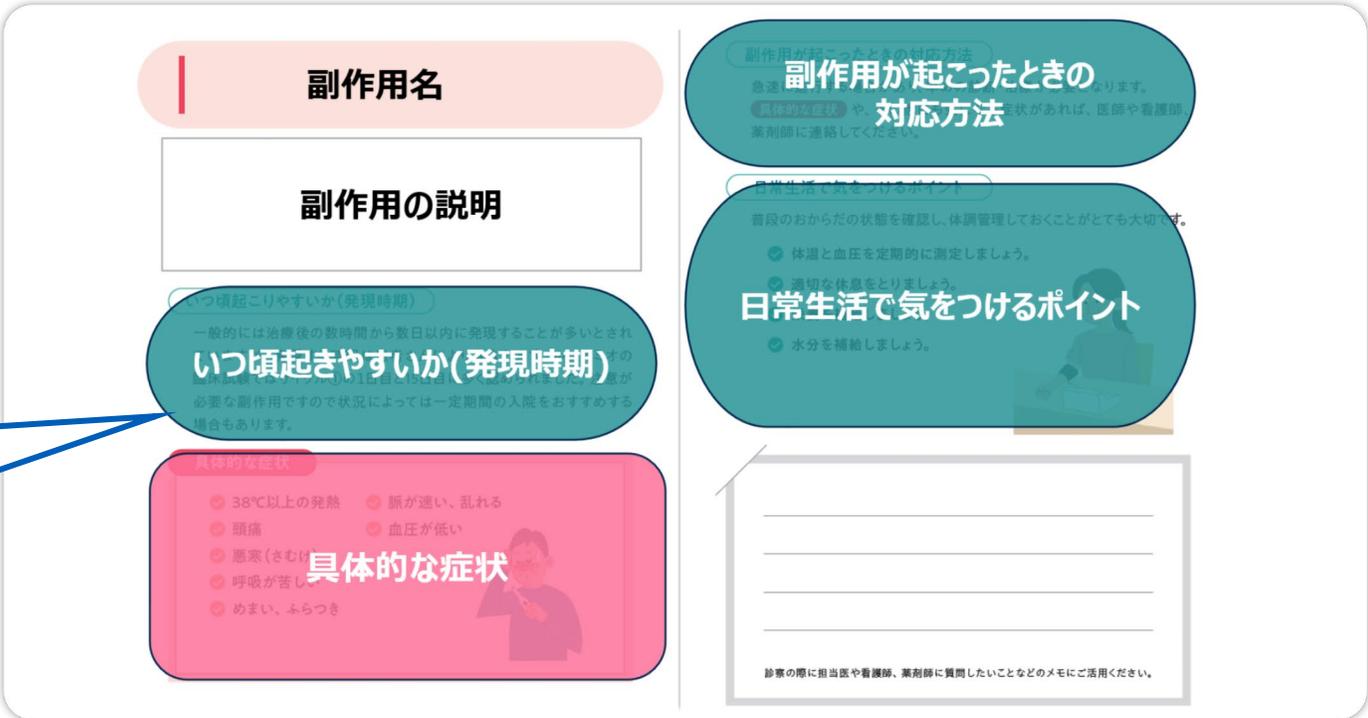
専門的な先生に監修いただく事例はこれまで多くありましたが、患者さん向け資材を作成する際に、**患者さんのご意見を取り入れる事例もみられるようになって**います。

**事例**：製薬会社の作成する冊子に求める安全性情報や情報提供手段を検討するため、患者さんアンケートを行い、アンケート結果を踏まえて患者向けRMP資材案を作成し、患者さん目線での患者団体のレビューを経て、最終化した。

オンコロジー領域の患者団体会員を対象としたオンラインアンケート調査で、特に掲載してほしい情報の上位3件は、

- ① 副作用が起こったときの対応方法
  - ② 具体的な副作用症状
  - ③ 日常生活で気をつけるポイント
- であった。

各リスクについて、アンケートにて掲載希望の多かった内容を記載。



副作用名	副作用の説明

**いつ頃起きやすいか(発現時期)**  
一般的には治療後の数時間から数日以内に発現することが多いとされ、  
副作用の発現時期は患者さんごとの状態によって異なります。必要に応じて医師や看護師に相談してください。

**具体的な症状**

- 38℃以上の発熱
- 頭痛
- 悪寒(さむけ)
- 呼吸が苦しい
- めまい、ふらつき
- 顔が速い、乱れる
- 血圧が低い

**副作用が起こったときの対応方法**  
副作用が起きたときは、速に医師や看護師に連絡してください。症状があれば、医師や看護師、薬剤師に連絡してください。

**日常生活で気をつけるポイント**

- 体温と血圧を定期的に測定しましょう。
- 適切な休息をとってください。
- 水分を補給しましょう。

診察の際に担当医や看護師、薬剤師に質問したいことなどのメモにご活用ください。

# 資材作成に患者さんの意見を取り入れた事例 (2/2)

資材の使用者である患者さんのご意見を通じて  
活用いただきやすい、意味のある、医薬品情報の提供を目指しています。

**事例：**患者さんが持ち歩くものなので目立つ色ではなく控えめな色で作成。患者さんへのインタビューによりご助言をいただき、もっと目立つように、患者さんも意識できるように、デザインを修正した。

インタビューで頂戴したご意見の一例

✓ 色合いに関して (爽やかすぎる)

①案 ②案 ③案

最終レイアウト

万が一落としても拾ってもらえるように  
もっと目立つほうが良い

**患者安全性カード RMP**

を服用されている患者さんは、このカードを常に携帯してください。

医療機関にかかるときは、治療に関わるすべての医療従事者(医師・看護師・薬剤師など)にこのカードを提示してください。

髄膜炎等による重篤な感染症に関連する初期徴候や症状がみられた場合には、直ちに主治医に連絡し、緊急の治療を受けてください。主治医と連絡が取れない場合には直ちに救急車を呼び、このカードを救命救急室のスタッフに提示してください。

治療により、自然に備わっている感染症に対する抵抗力が低下することがあります。また、髄膜炎や肺炎球菌、インフルエンザ菌b型に対するワクチンを接種していたとしても感染症を予防できない場合があります。重篤な感染症は、早期発見、早期治療が行われない場合、急激に重症化し死に至ることがあるため、緊急の治療が必要です。

治療を中断/中止した場合でも、髄膜炎等による感染症が発現することがありますので、本剤の治療終了後も最低2週間はこのカードを携帯してください。

**髄膜炎等による感染症が疑われる際に注意が必要な症状**

- 発熱 ● 震えや悪寒 ● 頭痛 ● 発疹 ● 胸痛や咳
- 悪寒しさ(息切れや呼吸数の増加) ● 高い心拍数
- 吐き気や嘔吐 ● 首筋や背中のかたまり
- 錯乱(混乱)して考えがまとまらない、物事を理解できない)
- インフルエンザのような症状を伴う体の痛み
- 皮膚の冷感
- 光に対する過敏な感覚(元が真昼にキラキラ輝いて見える、実際にまぶしく感じる等) など

感染症の初期症状は、インフルエンザや風邪の症状と区別がつきにくい場合があります。

**医療従事者の方へ**

この患者さんは、**髄膜炎**、**肺炎球菌**、**インフルエンザ菌**等の**髄膜炎**や**細菌**による**重篤な感染症**の発症リスクが増加しています。

- 髄膜炎等による重篤な感染症は、早期に治療が行われない場合、急激に重症化し、死に至る可能性があります。
- 髄膜炎等による重篤な感染症が疑われる場合には否定できない場合には、抗菌療の投与等の適切な治療を直ちに開始してください。詳しい治療法に関する情報は、最新ガイドラインをご参照ください(日本神経学会診療ガイドライン「髄膜炎」)
- 最新世代セフェム系抗菌薬(セフトリアキソン、セフォキシム)による治療が実施されています。
- 髄膜炎等による重篤な感染症が疑われた場合には、直ちに主治医に連絡をお願いします。

<https://www.neurology-jp.org/guideline/> ▲ 日本神経学会 診療ガイドライン

感染症の予防のため、ワクチンの接種が必要です。以下のワクチン接種日を記録してください(医師記入)。

※追加接種の必要は主治医と相談してください。

ワクチン	接種した日	次回接種予定
髄膜炎ワクチン	年 月 日	年 月
肺炎球菌ワクチン	年 月 日	年 月
インフルエンザ菌b型(Hib)ワクチン	年 月 日	年 月

最新の電子添文は、こちらからご覧いただけます。

患者氏名  
年齢  
治療の医療機関名  
主治医  
電話番号  
緊急時受付可能医療機関名  
連絡先医療機関名  
連絡先電話番号

詳しく治療の詳細や「緊急時受付可能医療機関」は主治医と相談してください。

このカードは常に携帯し、受け取るときは薬剤師に提示してください。

2025年5月作成

# CONTENTS

1. 製薬企業による各種資材の作成～資材に込めた思い～
2. 薬剤師による情報活用～アンケート結果からみえた現状～
3. まとめ

資材に込めた情報や意図は、  
きちんと伝わっている？

製薬会社が作成した資材は  
薬局ではどのくらい活用・配布さ  
れている？

提供している資材の形式や媒体  
は、使いやすいものになっている？



# 薬剤師による情報活用：薬剤師向けアンケート調査結果

薬剤師によるRMP資材活用の現状は？解決すべき課題はどのような点でしょうか？  
2種類の薬剤師向けアンケート調査結果をご紹介します。

	アンケート① <sup>1)2)</sup>		アンケート② <sup>3)</sup>
調査期間	2024年6月27日～7月3日	2025年5月16日～5月22日	2025年10月13日
調査目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>保険薬局・病院薬剤部でのRMP資材の活用・認知の現状を知る</li> <li>今後の活用意向</li> <li>現状活用にあたっての課題感が有るのか無いのか</li> <li>製薬企業への要望（PMDAへの要望）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2024年6月と同様</li> <li>1年前実施比較</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>分科会の質向上</li> <li>今後の患者向け医薬品情報提供のあり方の検討</li> </ul>
調査方法	アサクサービス会員 インターネット調査 (株式会社ネクスウェイ実施)	アサクサービス会員 インターネット調査 (株式会社ネクスウェイ実施)	Formsを介したアンケート調査 (学術大会分科会16の中で実施)
サンプルサイズ	薬剤師568名 保険薬局勤務：465名 病院薬剤部勤務：101名	薬剤師616名 保険薬局勤務：468名 病院薬剤部勤務：147名 勤務以外：1名	第58回日本薬剤師会学術大会 分科会16 「もっともっと活用しよう！医薬品情報」 参加者66名

株式会社ネクスウェイが実施した以下のアンケート結果より、株式会社ネクスウェイの許諾の上掲載

1)「医薬品リスク管理計画（RMP）」の活用に関する薬剤師アンケート | 2024年6月実施（株式会社ネクスウェイ） 薬剤師568名の調査結果

2)「医薬品リスク管理計画（RMP）」の活用に関する薬剤師アンケート | 2025年5月実施（株式会社ネクスウェイ） 薬剤師616名の調査結果

3)第58回日本薬剤師会学術大会 分科会16 参加者アンケート

| 2025年10月実施 分科会参加者66名の結果

# 薬剤師のRMP資材活用：RMP資材を活用している割合は？

RMPを知っていてRMP資材を活用しているは65.6%で、昨年より10%増加しました。  
RMPを知っているが活用していないは22.9%、知らないし活用予定もないは6.2%でした。

## アンケート① 【活用経験】

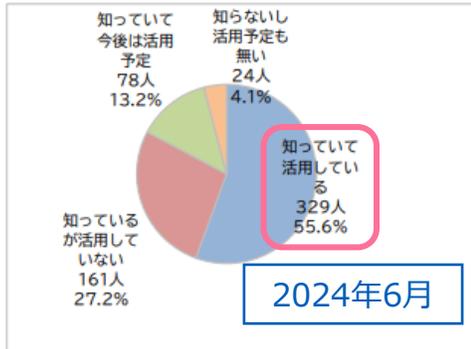
### 単一 選択式

Q1 RMP(Risk management plan)をご存じですか？  
また、知っている方は貴施設において「RMP資材」を業務に活用したことはありますか？  
活用予定も含めご教示ください。



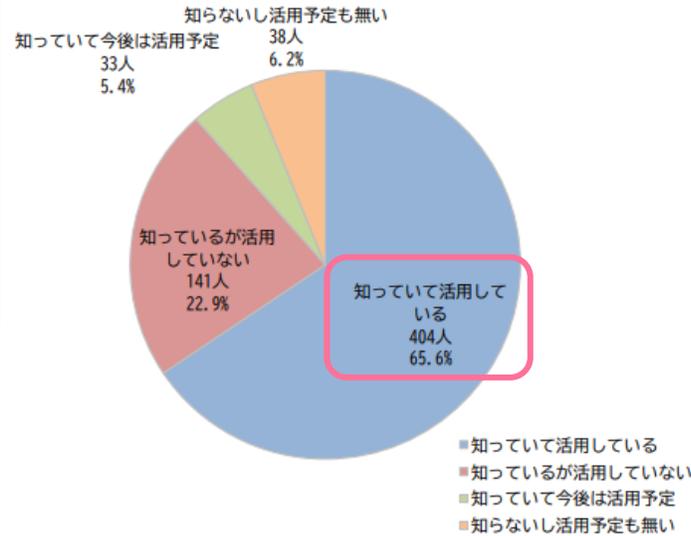
知っていて活用が昨年同時期より10%UP  
知らないし活用予定もないが2%UP

2025年5月



2024年6月

※1年前同設問回答

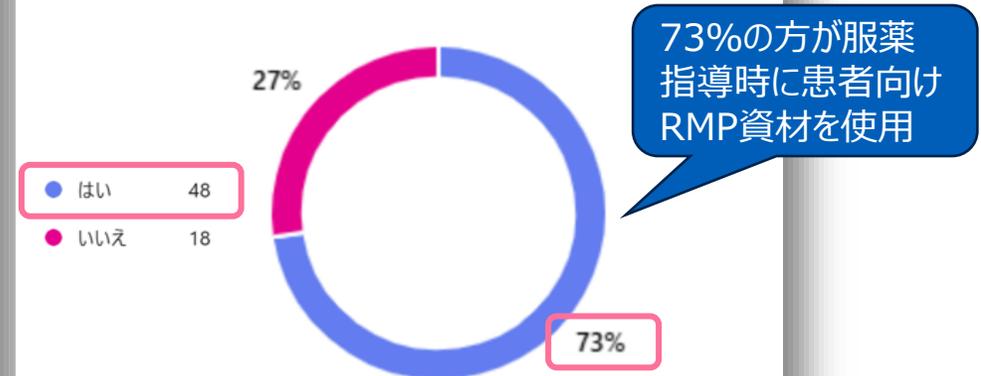


## アンケート② 【活用経験】

第58回 日本薬剤師会学術大会 分科会16 会場アンケート

Q2.患者さんへの服薬指導の際に、患者向けRMP資材を使用していますか？

(N=66)



73%の方が服薬指導時に患者向けRMP資材を使用

# 薬剤師のRMP資材活用：RMP資材はどのように活用されている？

RMP資材の活用では、「患者向け資材を服薬指導へ活用」が87.9%、「薬剤交付時に配布」が66.4%と多く、医療従事者向け資材を薬局内や他職種などへの情報共有に活用している例もみられました。

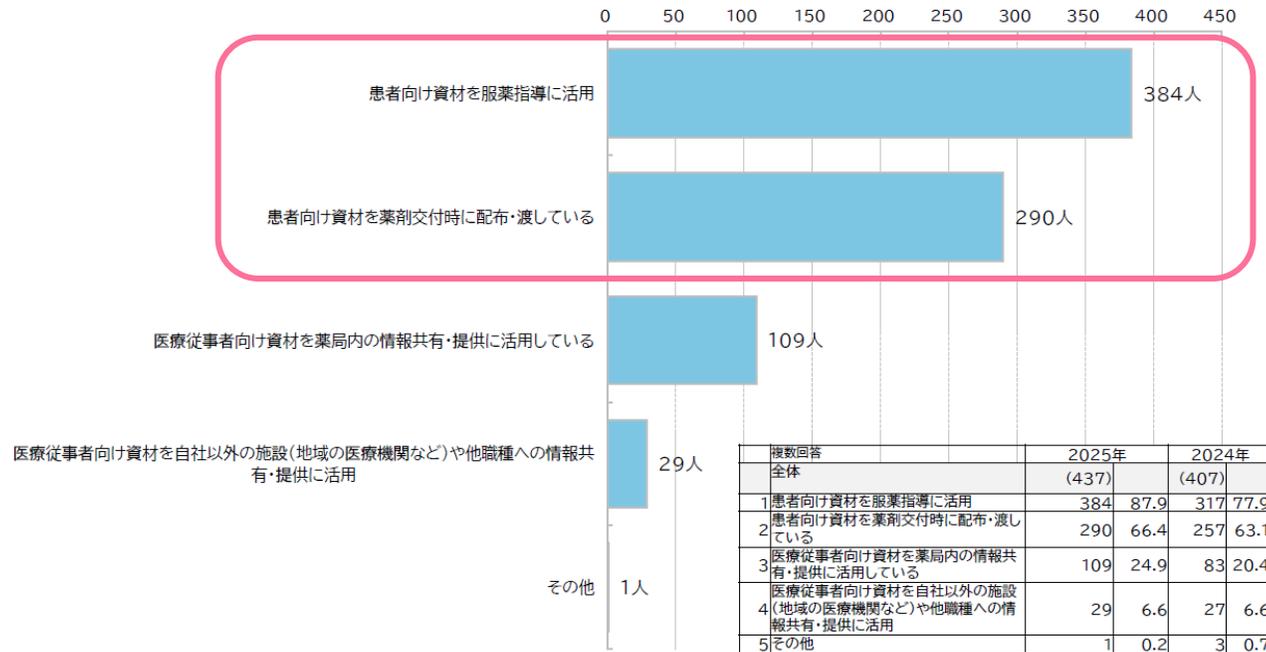
## アンケート① 【活用事例】

複数  
選択式

Q4 RMP資材の活用事例を教えてください



ほぼ数値は変わらないが患者向けの活用から局内共有活用が若干UP



## 具体事例（2024年アンケート結果より抜粋）

### 【服薬指導】

- 資材を確認いただくことで**理解が深まる**（口頭だけでなく資材を見ることで気づいていただけた）
- 資材を見せて説明、**一緒に確認**できた
- 徐々に増量する必要性を**うまく説明**できた

### 【副作用】

- 問い合わせの際に活用している
- **副作用の早期発見**につながった
- **前もって副作用対策を行う**ことで治療継続できた
- 患者さんが注意すべき症状がより詳細で明確になり、**お渡した資材により副作用に気づいた事例**があった

株式会社ネクスウェイが実施した以下のアンケート結果より、株式会社ネクスウェイの許諾の上掲載  
 「医薬品リスク管理計画（RMP）」の活用に関する薬剤師アンケート | 2024年6月実施  
 （株式会社ネクスウェイ）薬剤師568名の調査結果  
 「医薬品リスク管理計画（RMP）」の活用に関する薬剤師アンケート | 2025年5月実施  
 （株式会社ネクスウェイ）薬剤師616名の調査結果

# 患者さんへのRMP資材提供：RMP資材の提供の形式は？

患者さんへの提供方法では、  
ダウンロードしたファイルを印刷したり、製薬企業より入手した冊子を提供するなど、紙媒体での提供が多数でした。

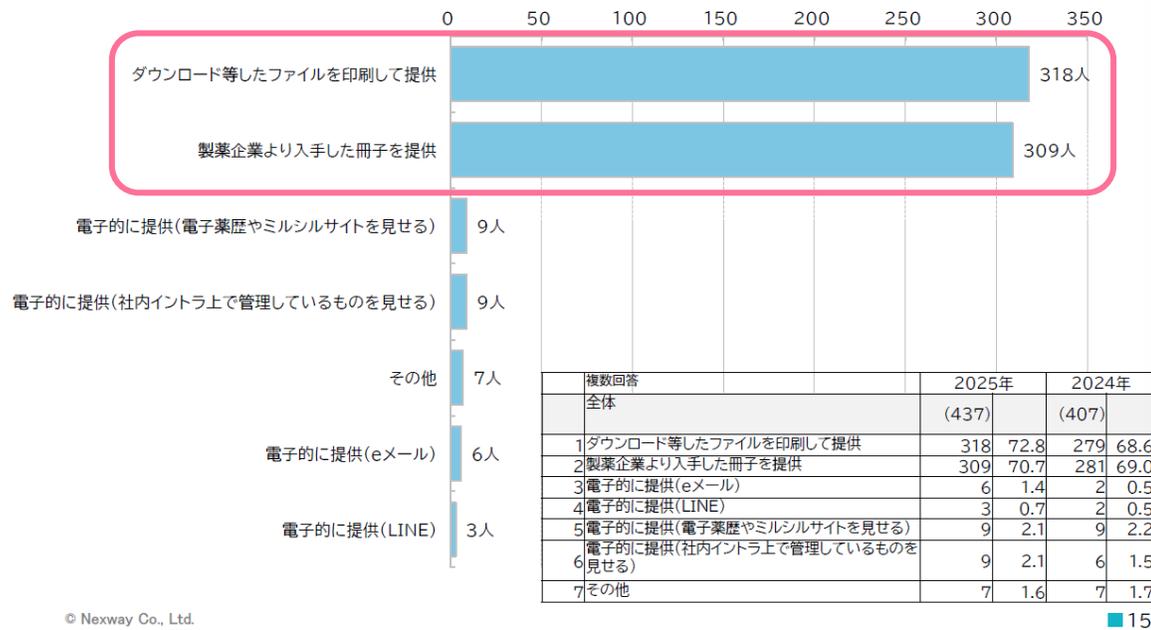
## アンケート① 【提供方法】

複数  
選択式

Q6 RMP資材の患者さんへの提供方法について教えてください



必要に応じて印刷するが微増 ほぼ変化なし



© Nexway Co., Ltd.

## アンケート② 【提供方法】

第58回 日本薬剤師会学術大会 分科会16 会場アンケート

### Q8.患者向け説明資材を利用する際、どのように提供していますか？

(複数選択可)

(N=47)



第58回日本薬剤師会学術大会 分科会16 参加者アンケート | 2025年10月実施 分科会参加者66名の結果

# 患者さん向け資材の利用：課題は？

患者向け資材利用時の課題として、①短時間の服薬指導で患者のニーズ・理解度にあっているか把握できない、②サイズやレイアウトがまちまちで印刷しにくい、③発出（改訂）タイミングがわからないなどが挙げられました。

アンケート②  
【課題】

第58回 日本薬剤師会学術大会 分科会16 会場アンケート

## Q10患者向け資材を利用する際、困っていることは何ですか？

(最大3項目まで、複数選択可)

(N=66)



# CONTENTS

1. 製薬企業による各種資材の作成～資材に込めた思い～
2. 薬剤師による情報活用～アンケート結果より～
3. **まとめ**

# アンケートから得られた患者向け資材の課題

- 資材の**サイズやレイアウト**がまちまちで印刷しにくい
- 資材の**発出・改訂タイミング**がわからない
- 患者へのアドヒアランスの影響が心配（副作用の記載が多い場合など）
- 適切な資材を選べない、患者に**説明するポイント**がわかりづらい、入手方法がわからない



PMDA/  
厚生労働省  
製薬企業



薬剤師



デジタル  
(電子お薬手帳、アプリなど)

短時間の服薬指導で患者さんのニーズ・理解度にあっているか把握できない



患者さん

# アンケートから得られた患者向け資材の課題

より良い情報提供のあり方を産官学で検討していきたい。

- ## 1. 患者さんにも薬剤師にもわかりやすく
- ✓ 注意してほしいポイントの明確化  
(例：1ページでまとめる概要ページの追加など)
  - ✓ 患者さんや薬剤師さんの意見を資材に反映

- ## 2. 適時に最新情報にアクセスできる環境を
- ✓ システムやアプリへの取り込みができるファイル形式の検討
  - ✓ レイアウトの共通化、PMDA WEBの活用

- ## 3. 電子的なコミュニケーションをどのように活用できるか
- ✓ 最新資材にアクセスしやすい環境構築
  - ✓ 患者さんがWEB検索時に正しい情報へアクセスできる仕組みの構築
  - ✓ 単に紙をデジタル化するのではなく、患者さんにとっての価値ある情報の提供
  - ✓ 電子お薬手帳、電子処方箋の活用、患者フォローアップにおけるアプリの活用
  - ✓ 生成AIとの理想的な協働の可能性？



PMDA/  
厚生労働省  
製薬企業



さんのニーズ・理解度にあっ  
ているか把握できない



患者さん



デジタル  
(電子お薬手帳、アプリなど)

# 1. 患者向け資材のポイントの明確化（RMP資材含む）

## 患者さん向け情報の“冒頭”に、最も大切なことを。

患者さん向けの総合的な情報の「冒頭」に注意すべきポイントがまとまっているとよいのではないかな？

### 投与前に必ず確認してほしいこと

治療中は、以下のことに注意が必要です。  
治療を始める前に主治医とご確認ください。

#### ！ 感染症に気をつけましょう。

治療中、感染症にかかりやすくなる傾向があります。  
また、感染症にかかったときに、重症化してしまうおそれがあります。

- ☑ 手洗い、うがいなど、感染症予防を心がけましょう。
- ☑ 日ごろから、感染症が疑われる症状（熱がある、寒気がする、息苦しい、咳や痰が出る、のどが痛むなど）にご注意ください。



#### ！ 気になる症状があらわれた場合には、医師、看護師、薬剤師に相談してください。

治療を始めた後に、副作用があらわれることがあります。  
「治療中にくに気をつけていただきたい副作用」(→16～21ページ)を参考に、体調の変化に注意してください。

#### 日常生活で気をつけるポイント

- 手洗い、うがいを常に心がけましょう。
- からだをぶついたり、転んでケガをしないように気をつけましょう。
- 包丁やハサミを使うときは切り傷に注意しましょう。
- 歯を磨くときは歯ぐきを傷つけないよう、やさしく磨きましょう。



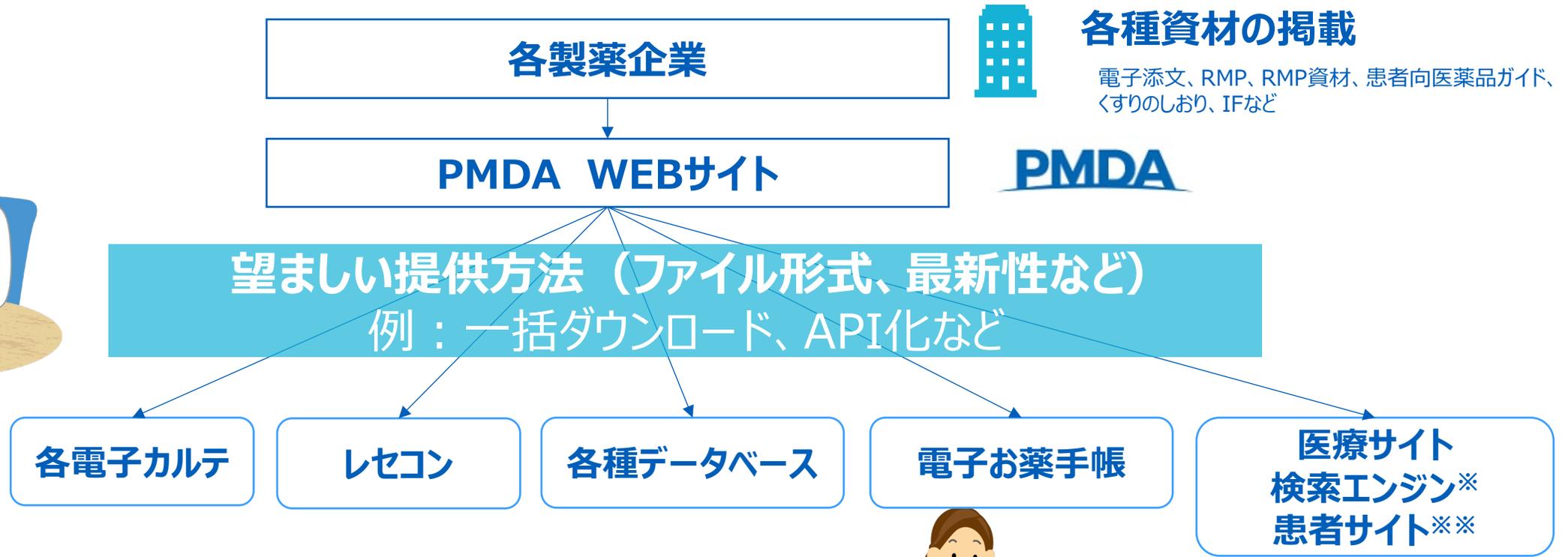
ポイントを説明しやすい  
(説明の記録もしやすい)



## 2. 適時に最新の情報にアクセスするための仕組みづくり

正しく、最新の情報が、すべてのステークホルダーに届く仕組みを。

正しい、最新の情報があらゆるステークホルダーに届くための仕組みが必要ではないか？



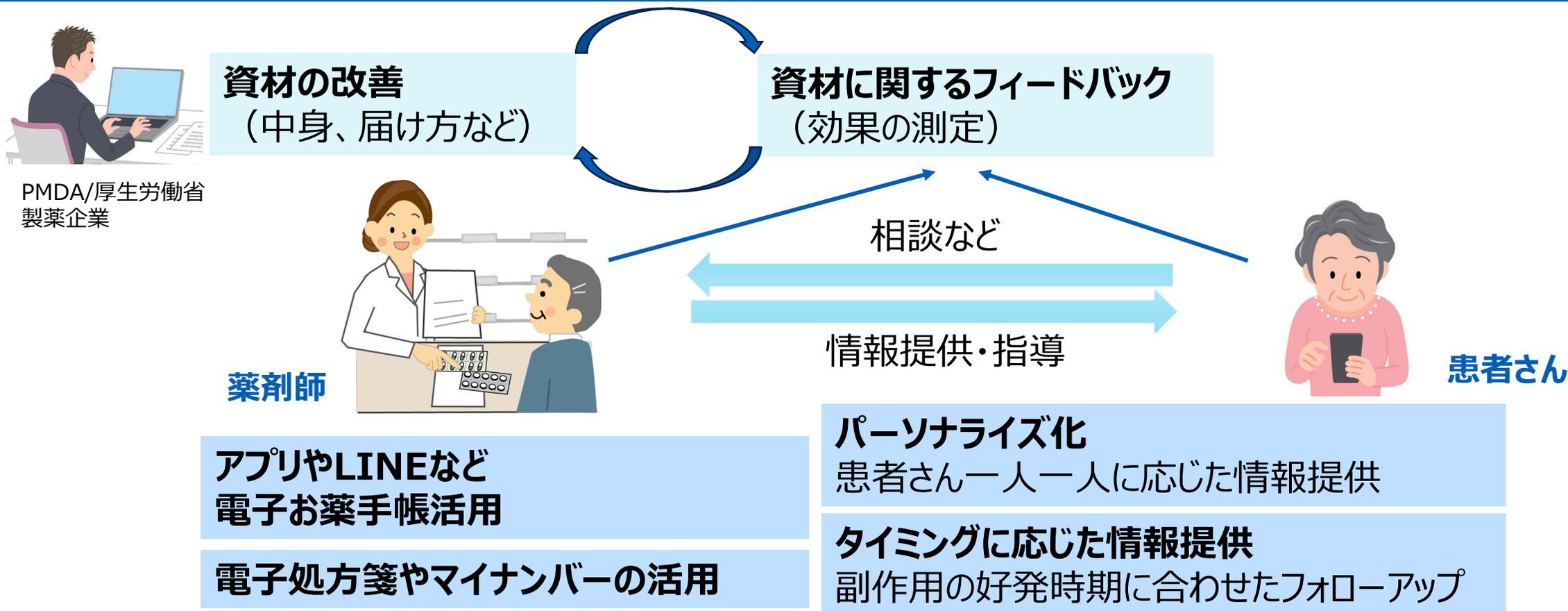
\*GOOGLE、YAHOO、BINGなど  
(生成AI含む)

\*\*QLIFE、おくすり110番、  
メドレー、ミルシルサイトなど

### 3. 患者さんへの情報提供の未来像

電子的なコミュニケーションの活用を。

電子情報や生成AIを適切に活用できれば、専門性を最大限に発揮できる環境が作れるのではないかな？



生成AIの適切な活用とは？

# ご清聴ありがとうございました

本日のスライドは後日製薬協のWEBサイトで公開予定です

## 6. DX関連（電子的な情報提供等）



# 製薬協

# PVナビ

### 📄 ホワイトブック（その他ガイダンス等）

#### アンケート結果（全般）

- 電子的な情報提供に関するアンケート結果-製薬協参加企業の動向-（2023年1月実施）

#### アンケート結果（医療従事者向け情報提供）

- 医薬品の安全性情報に関する医療従事者のニーズ把握調査（医師、薬剤師）-速報- 2023年5月実施

#### アンケート結果（患者さん向け情報提供）

- 患者さん及びご家族の医薬品情報の入手に関する実態調査 -速報-（2024年2月実施）
- デジタルを用いた患者さん向け情報提供に関するアンケート結果（PV部会参加企業 2023年1-2月実施）
- 「くすり」と製薬産業に関する生活者意識調査」報告書（広報委員会）



PVナビで検索

# 作成担当／編集

本資料の内容を無断で転載することを禁じます

## リーダー兼担当副会長 拡大幹事

竹本 信也	(中外製薬株式会社)
北川 南都子	(日本イーライリリー株式会社)
篠田 好果	(ノバルティス ファーマ株式会社)

野口 正浩 (アステラス製薬株式会社)	中西 晋平 (中外製薬株式会社)
奥平 可奈子 (エーザイ株式会社)	谷口 圭一 (鳥居薬品株式会社)
富島 さやか (大塚製薬株式会社)	田中 佐千代 (日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社)
安東 亜希子 (グラクソ・スミスクライン株式会社)	隅谷 真依 (ファイザー株式会社)
原田 郁子 (住友ファーマ株式会社)	海野 一郎 (マルホ株式会社)
水田 藍 (千寿製薬株式会社)	森田 愛子 (Meiji Seika ファルマ株式会社)

日本製薬工業協会 医薬品評価委員会 ファーマコビジランス部会 TF1 (DXを活用したリスクコミュニケーション)  
〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2-3-11 (日本橋ライフサイエンスビルディング)  
TEL : 03-3241-0326 FAX : 03-3242-1767